

学会記事

§ 2017年度春季大会報告

1. 2017年度春季大会は3月30日(木)に神戸大学において盛会裏に行われた。前日の29日(水)には、編集委員会、産学交流促進委員会、国際交流委員会、将来構想委員会、若手幹事会、選考代議員会、理事会が、当日には一般講演、評議員会、常務理事会、総会、ランチョンセミナー、名誉会員推戴式、功労賞授与式、優秀発表賞授与式、高校生のポスター発表が行われた。(大会委員長 上曾山博会員、一般講演56題、参加者220名)

2. 理事会・評議員会および総会で報告、決定された主な事項は以下のとおりである。

(1) 大会関係

○2017年度秋季大会は、信州大学において9月4～6日に開催される予定である(大会委員長 小野珠乙会員)。

(2) 賞関係

○中川次郎会員の名誉会員推戴式が執り行われた。
○森 誠会員に功労賞が授与された。
○審査員の評価に基づいて常務理事会で審議した結果、2017年度春季大会では、第1会場：武田未紗会員(茨城大農)「ウコッケイ視床下部における抱卵行動関連遺伝子の発現」および胡桃澤希未会員(信州大農)「ニワトリ胚生殖細胞における後天的遺伝子発現制御機構の解析」、第2会場：島元紗希会員(鹿児島大農)「ニワトリヒナ骨格筋においてアドレナリンによるPGC-1 α およびatrogen-1の遺伝子発現調節は異なる」および青谷大希会員(秋田畜試)「比内地鶏の初生時における行動ストレス反応性と生産性との関連」にそれぞれ授与することが決定され、総会終了後に授与式が執り行われた。
○平成29年度日本家禽学会賞および奨励賞にそれぞれ1件の推薦があり、現在選考中である。

(3) 日本農学会関係

○平成29年度日本農学大会は平成29年4月5日(水)に東京大学山上会館で開催された。また、平成29年度日本農学会シンポジウムは東京大学弥生講堂において「大変動時代の食と農」というテーマで開催される予定である。

(4) 日本学術会議関係

○第23期日本学術会議畜産学分科会から協力依頼があれ

ば対応することとした。

(5) 産学交流促進委員会関係

○平成28年9月15日(木)に公開シンポジウム「鳥類における発生工学および遺伝子組み換え技術の現状と産業への新展開」を開催した。
○賛助会員の企業案内等の配架を継続して行った。
○平成29年9月4日(月)に公開シンポジウム「鶏の育種改良の方向性と課題」を開催する予定である。
○鶏病研究会との連携に関する検討を始めている。

(6) 将来構想委員会関係

○大会の開催に関して2年で3回(秋の開催は畜産学会が開催されない年)の開催案を検討している。シンポジウムに関しては、基礎と応用の両方を交代で開催することを検討している。
○個人会員と賛助会員の増加に関して、新聞等に掲載することや関連企業にお知らせを送るなどの案を検討している。また、学生会員に対して企業説明等の養鶏産業をアピールする場を設けることを検討している。
○将来的な国際学会の開催を国際交流委員会および若手幹事会と議論することを始めた。
○和文誌の活性化を行うために、県職員の報告や賛助会員の広告、高校生の発表などの新たな試みを行うことに関して検討を進めている。

(7) 国際交流委員会関係

○WPSA ニュースレターに日本家禽学会活動記事を掲載している。また、記事内にて、海外会員枠のアナウンスと入会の呼びかけを行っている。また、将来の国際会議の開催に向けての検討を始めた。
○第11回アジア太平洋家禽学会(APPC2018)はバンコクで開催される(2018年3月25日～27日)。
○第26回世界家禽会議(WPC2020)はパリで開催予定である。
○2017年度の信州大学にて開催予定の秋季大会で、近隣諸国から講演者を招聘し、ミニ国際シンポジウムの開催を予定している。開催費用の一部については、世界家禽学会(WPSA)の補助金制度を利用する予定。
○若手研究者の国際会議参加を促すため、渡航補助金の件数を減らし、金額を増加させることを検討している。

(8) 広報委員会関係

○学会と JPS を広報する英語版のリーフレット 1,000 部を作成した。今後のリーフレットのデザインや作成などは、若手幹事会と連携して更新することとした。

○学会 HP の脆弱性が指摘され、バージョンアップを行う予定である。

○学会ホームページに掲載するバナー広告の募集に関する検討を始めた。

(9) 若手幹事会関係

○平成 29 年度春季大会でランチョンセミナー「題名：鶏卵の加工技術」を開催した（3 月 30 日（木）、出席者 約 60 名）。

○平成 29 年度秋季大会で畜産学会と合同でサイエンスナイトを、平成 30 年度春季大会でランチョンセミナーを開催する予定である。

○若手幹事会は期間限定の委員会として発足したため、今期で終了となる。常置委員会として継続していくかの検討を理事会とともに始めた。

(10) 家禽学用語集編集委員会関係

家禽学用語集第 1 版を編集して学会ホームページに掲載し、現在、会員からの修正を継続して受け付けている。今後、出版の方向を検討している。

(11) PubMed 申請検討委員会

Medlineへの申請を村井篤嗣会員および豊後貴嗣編集委員長が中心となって行ったが、採択されなかった。要因としては、NLM Collection Development Manualに合致しないとの理由であった。今後、PMC（旧PubMed central）への申請を行う方向で検討を進めている。申請に関しては、出版社の代行サービスを利用し、確実に掲載されることを目指す。

(12) 会員の移動

平成 29 年 2 月 28 日現在の会員状況

（平成 28 年 2 月末日からの増減）

名誉会員	11 名 (+1)
A 会員	121 名 (+5 -7)
B 会員	193 名 (+13 -14)
A 学生会員	15 名 (+5 -4)
B 学生会員	43 名 (+20 -31)
A シニア会員	2 名 (+1)
B シニア会員	7 名 (+4)
海外特別会員	2 名 (-1)
合計	394 名 (+49 -57)

A 賛助会員 24 社 ()

B 賛助会員 9 社 (-2)

賛助会員合計 33 社 ()

総計 427 (+49 -59)

(13) その他

○科学研究費補助金

平成 28 年度に申請して採択されなかった科研費「国際情報発信強化（B）」獲得のため、学術振興会で開催された説明会に参加した。平成 28 年 9 月 16 日（金）に事務局、編集、広報、国際交流の各委員長およびPubMed検討委員で、国際情報発信強化の統一した方策に関して議論をし、それに従って内容を改変し、「家禽産業研究領域のトップジャーナルを目指した国際情報発信力強化」の題名で提出し、これが採択された。また、これに伴い、学会の著作権ポリシーおよび調達ポリシーを策定した。

○外部監査に関して

外部監査を置くことが推奨されていることから、会員以外の方に外部監査をお願いすることが了承された。科研費に記載した年次計画に伴い、平成 29 年度から委嘱することとした。

○高校生のポスター発表

平成 29 年度春季大会（神戸大学）において、大会実行委員会より高校生のポスター発表開催が提案され、これを開催した。合計 5 校（発表者 16 名）の発表があり、盛会裏に行われた。学会からは発表の証明書および感謝状を贈呈した。

○PMC への申請に関して

Medlineの不採択を受け、PMCへの申請を進めていくこととした。申請に関しては、科学研究費補助金を利用して、出版社の代行サービスの利用を考えるとともに COI 規定や査読ポリシーを制定しなければいけない。編集委員会が中心となって、これを策定する予定である。

○今後の大会開催予定

2017 年度秋季 信州大学

2018 年度春季 東京大学

2018 年度秋季 東北大学

2019 年度春季秋季 未定（畜産学会開催場所を予定）

(14) 編集関係

○The Journal of Poultry Science 誌第 53 巻 2 号～第 54 巻 1 号、日本家禽学会誌 53 巻 J1・J2 号、ニュースレター 18・19 号、講演要旨 2 冊（春季大会号・秋季大会号）を発行した。

○The Journal of Poultry Science の 2016 年インパクトファクターが公開された（IF=0.513）。IF を上昇させる方策

を検討している。

○JPS 優秀論文賞の選考手順を以下のように改正した。

(1) 毎号発行後に2報以内(1報可)を一次選考として分野に関係なく各編集委員に推薦していただき、翌年の最終選考時には一次選考で推薦されたものの中から優秀論文賞を決定する。

(2) 最終選考の採点は編集委員全員によって行い、集計結果を選考委員で確認する。

○PMC への申請に必要な規定を制定していく。

○投稿数の減少が認められるため、会員の皆様からの投稿をお願いする。

(15) 会計関係

○平成28年度の一般会計の決算報告書が承認された。また、平成28年度の国際家禽会議記念基金特別会計および西川畜産奨学特別会計の決算報告書がともに承認された。

○平成28年度の一般会計および特別会計決算書の収入および支出の細目について勘定明細書、預金帳簿残高、など照合のうえ監査を行った結果、いずれも適正に運用されており、法的にも問題のないことが監事から報告された。

○平成29年度の一般会計予算案および平成28年度国際家禽会議記念基金特別会計予算案および西川畜産奨学特別会計予算案が、審議の結果原案どおり承認された。ま科研費が採択されたため、特別会計を新たに開設することにした。

§ 科研費「国際情報発信力強化(B)」に関して

本年度申請の科研費が採択されたことを受け、国際情報発信力強化の事業を進める必要がある。皆様のご協力をお願いします。

§ 2018年度日本家禽学会賞および同奨励賞候補者の募集について

2018年度両賞の受賞候補者推薦を募集します。締め切りは2017年12月29日(金)で、期日までに選考規程を参照して候補者の推薦をお願いします。なお、奨励賞については2018年4月1日現在において、満40歳以下の方が対象となります。

§ 日本家禽学会技術賞候補者の募集について

日本家禽学会技術賞候補者の推薦を受け付けておりますので、奮ってご推薦下さい。なお、技術賞の受賞の対象は、日本家禽学会細則第3条の(4)により、「家禽産業の発展に寄与する新技術を開発した者あるいは新技術および新発想を積極的に経営に導入し成果を上げている者

となっております。推薦者は日本家禽学会の会員に限りませんが、候補者はこの限りではありません。

推薦時に必用な書類：

①候補者(団体の場合は代表者)の氏名、生年月日および所属、候補者の略歴(表彰歴を含む)(団体の場合は団体名および設立年月日)、推薦者の氏名および所属を示すもの。

②業績概要(2,000字以内)

③業績内容を示す資料：研究業績(別刷)、経営資料、特許、実用新案、公刊図書など。(別刷またはコピーを7部添付。ただし、業績が5編を越える場合は主要なもの5編の別刷りまたはコピーで可。)

候補者推薦の締切：2017年7月31日(月)(当日消印有効)

書類の送付先：

〒305-0901 茨城県つくば市池の台2

農研機構 畜産研究部門内 日本家禽学会事務局

§ 日本農学賞受賞候補者の推薦について

日本農学会から平成29年度の日本農学賞受賞候補者の推薦依頼がある予定である。下記の要領によりご推薦下さい。

提出書類：

1)推薦書：候補業績、候補者氏名、所属および職名、

候補者略歴(生年月日、学歴、職歴)、推薦理由

2)業績概要：業績題目、所属、図表および主要研究業績
詳しくは日本農学会ホームページ <http://www.ajass.jp/> を参照して下さい。

締切：2017年8月31日(木) 必着

提出先：日本家禽学会事務局

§ (公財) 農学会農学進歩賞候補者の推薦について

人類と多様な生態系が永続的に共生するための基盤である農林水産業およびその関連産業の発展に資するために、農学の進歩に顕著な貢献をした者に対し、標記の賞が授与される。受賞対象者は当該年度の10月1日時点で40歳未満の者となっている。農学進歩賞には、大学の学部長、研究機関の長、あるいは農学系学協会の長が毎年1名に限り推薦できることとなっている。日本家禽学会長の推薦を必要とする方は、2017年6月30日(金)までに必要書類を日本家禽学会事務局に提出して下さい。日本家禽学会常務理事会、理事会等で審査を行い、推薦の可否を決定する。詳しくは(公財)農学会のホームページ <http://www.nougaku.jp/> を参照して下さい。